

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4713264号

(P4713264)

(45) 発行日 平成23年6月29日 (2011. 6. 29)

(24) 登録日 平成23年4月1日 (2011. 4. 1)

(51) Int. Cl.

F I

G 0 6 T 1/00 (2006. 01)

G 0 6 T 1/00 2 0 0 C

G 0 6 F 12/00 (2006. 01)

G 0 6 F 12/00 5 2 0 E

G 0 6 F 17/30 (2006. 01)

G 0 6 F 17/30 2 1 0 C

請求項の数 10 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2005-212837 (P2005-212837)
 (22) 出願日 平成17年7月22日 (2005. 7. 22)
 (65) 公開番号 特開2007-34399 (P2007-34399A)
 (43) 公開日 平成19年2月8日 (2007. 2. 8)
 審査請求日 平成20年6月12日 (2008. 6. 12)

(73) 特許権者 000006747
 株式会社リコー
 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号
 (74) 代理人 100084250
 弁理士 丸山 隆夫
 (72) 発明者 北山 暁子
 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号
 株式会社リコー内
 審査官 西出 隆二

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 文書管理システム、プログラム、文書管理方法および記録媒体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

登録する 1 つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムであって、

文書の登録指示を受け付ける受付手段と、

前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定するヘッダ解析手段と、

前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する UI 提供手段と、

前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する文書管理手段と、を含むことを特徴とする文書管理システム。

【請求項 2】

登録する 1 つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムであって、

文書の登録指示を受け付ける受付手段と、

ヘッダ情報の項目と文書プロパティの項目との対応付け設定を複数保持する保持手段と

10

20

、
前記文書のヘッダ情報を抽出し、前記保持手段に保持されている前記複数の対応付け設定がなされた情報リストの中から、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定するヘッダ解析手段と、

前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示するUI提供手段と、

前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する文書管理手段と、
を含むことを特徴とする文書管理システム。

10

【請求項3】

既に登録されている文書に対して、対応付けの再適用を行うことにより、プロパティ値を変更することを特徴とする請求項2記載の文書管理システム。

【請求項4】

登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムのコンピュータに実行させるプログラムであって、

文書の登録指示を受け付ける処理と、

前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する処理と、

20

前記判定する処理により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する処理と、

前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する処理と、
を含むことを特徴とするプログラム。

【請求項5】

登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムに実行させるプログラムであって、

30

文書の登録指示を受け付ける処理と、

ヘッダ情報の項目と文書プロパティの項目との対応付け設定を複数保持する処理と、

前記文書のヘッダ情報を抽出し、前記保持する工程に保持されている前記複数の対応付け設定がなされた情報リストの中から、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する処理と、

前記判定する処理により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する処理と、

前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する処理と、
を含むことを特徴とするプログラム。

40

【請求項6】

既に登録されている文書に対して、対応付けの再適用を行うことにより、プロパティ値を変更する処理をさらに含むことを特徴とする請求項5記載のプログラム。

【請求項7】

登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムの文書管理方法であって、

受付手段が、文書の登録指示を受け付ける工程と、

ヘッダ解析手段が、前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能

50

なヘッダ情報の有無を判定する工程と、

UI提供手段が、前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する工程と、

文書管理手段が、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する工程と、

を含むことを特徴とする文書管理方法。

【請求項 8】

登録する 1 つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムの文書管理方法であって、

受付手段が、文書の登録指示を受け付ける工程と、

保持手段が、ヘッダ情報の項目と文書プロパティの項目との対応付け設定を複数保持する工程と、

ヘッダ解析手段が、前記文書のヘッダ情報を抽出し、前記保持手段に保持されている前記複数の対応付け設定がなされた情報リストの中から、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する工程と、

UI提供手段が、前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する工程と、

文書管理手段が、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する工程と、

を含むことを特徴とする文書管理方法。

【請求項 9】

既に登録されている文書に対して、対応付けの再適用を行うことにより、プロパティ値を変更する工程をさらに含むことを特徴とする請求項 8 記載の文書管理方法。

【請求項 10】

登録する 1 つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムのコンピュータプログラムを記録した記録媒体であって、

文書の登録指示を受け付ける処理と、

前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する処理と、

前記判定する処理により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する処理と、

前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する処理と、

を含むことを特徴とするコンピュータプログラムを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ファイルのヘッダ情報の項目と文書プロパティの項目との間の対応関係をユーザーが設定するだけで、プロパティの値への設定はシステムが自動的に行う文書管理システム、プログラムおよび文書管理方法等に関する。

【背景技術】

【0002】

ファイルの中に埋め込まれているヘッダ情報を文書のプロパティとして適切に設定すれ

10

20

30

40

50

ば、検索などに利用ができ、文書の管理がしやすくなる。

【0003】

例えば、特許文献1には、作業者A、Bにより、それぞれ別途に、選択した文書ファイルの画像のタイトル領域の表記内容を元にインデックス情報が文書リストのインデックス列にキーボードにて入力され、その後、その文書リストに入力されているインデックス情報の照合を開始し、インデックス列とインデックス列との内容を比較して、両インデックスフィールド同士の内容が一致する場合にのみ、該一致する内容を付与すべきインデックス情報として確定し、文書ファイルに該インデックス情報が対応付けられてインデックスデータベースに登録されることで検索情報を正確に付与することができる技術が開示されている。

10

【0004】

ここで、特許文献2には、画像分割手段104は、入力文書画像を文字領域などの要素に分割し、文書のレイアウト特徴を検出する。論理構造モデル作成手段107は、複数のモデル文書102毎に論理構造モデルを作成する。要素抽出処理手段105は、論理構造モデルの内の一つのモデルを用いて文書画像から論理要素を抽出し、また、そのモデルのレイアウト特徴と抽出された論理要素に対応する、文書のレイアウト特徴との類似度を算出し、類似度に所定値を掛けた値が所定の閾値以上のとき、出力手段106は抽出された論理要素を文書データベース108に出力することで、論理構造を認識する際に、レイアウト情報のみを用いて書誌事項を抽出すると共に、自動的に文書タイプを識別することができる技術が開示されている。

20

【特許文献1】特開2001-160059号公報

【特許文献2】特開平11-184894号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、ヘッダ情報を文書プロパティ値に設定する作業をユーザーが手動で行うには、ユーザーがファイルのヘッダ情報を何らかのツールなどを用いて表示させたり、文書として登録する際にプロパティ値として入力するなどの必要があり、非常に手間がかかるうえに、間違いが介入する可能性が発生する。

【0006】

30

本発明は、以上説明した事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、プロパティ値に入力する際の間違いが介入することなく、プロパティ値設定の手間も軽減することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1記載の発明は、登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムであって、文書の登録指示を受け付ける受付手段と、前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定するヘッダ解析手段と、前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示するUI提供手段と、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する文書管理手段と、を含むことを特徴とする文書管理システムである。

40

【0008】

請求項2記載の発明は、登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムであって、文書の登録指示を受け付ける受付手段と、ヘッダ情報の項目と文書プロパティの項目との対応付け設定を複数保持す

50

る保持手段と、前記文書のヘッダ情報を抽出し、前記保持手段に保持されている前記複数の対応付け設定がなされた情報リストの中から、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定するヘッダ解析手段と、前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示するUI提供手段と、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する文書管理手段と、を含むことを特徴とする文書管理システム

【0009】

請求項3記載の発明は、請求項2記載の文書管理システムにおいて、既に登録されている文書に対して、対応付けの再適用を行うことにより、プロパティ値を変更することを特徴とする。

【0010】

請求項4記載の発明は、登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムのコンピュータに実行させるプログラムであって、文書の登録指示を受け付ける処理と、前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する処理と、前記判定する処理により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する処理と、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する処理と、を含むことを特徴とするプログラムである。

【0011】

請求項5記載の発明は、登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムに実行させるプログラムであって、文書の登録指示を受け付ける処理と、ヘッダ情報の項目と文書プロパティの項目との対応付け設定を複数保持する処理と、前記文書のヘッダ情報を抽出し、前記保持する工程に保持されている前記複数の対応付け設定がなされた情報リストの中から、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する処理と、前記判定する処理により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する処理と、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する処理と、

を含むことを特徴とするプログラムである。

【0012】

請求項6記載の発明は、請求項5記載のプログラムにおいて、既に登録されている文書に対して、対応付けの再適用を行うことにより、プロパティ値を変更する処理をさらに含むことを特徴とする。

請求項7記載の発明は、登録する1つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムの文書管理方法であって、受付手段が、文書の登録指示を受け付ける工程と、ヘッダ解析手段が、前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する工程と、UI提供手段が、前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する工程と、文書管理手段が、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記

ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する工程と、を含むことを特徴とする文書管理方法である。

請求項 8 記載の発明は、登録する 1 つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムの文書管理方法であって、受付手段が、文書の登録指示を受け付ける工程と、保持手段が、ヘッダ情報の項目と文書プロパティの項目との対応付け設定を複数保持する工程と、ヘッダ解析手段が、前記文書のヘッダ情報を抽出し、前記保持手段に保持されている前記複数の対応付け設定がなされた情報リストの中から、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する工程と、UI 提供手段が、前記ヘッダ解析手段により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する工程と、文書管理手段が、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する工程と、を含むことを特徴とする文書管理方法である。

10

請求項 9 記載の発明は、請求項 8 記載の文書管理方法において、既に登録されている文書に対して、対応付けの再適用を行うことにより、プロパティ値を変更する工程をさらに含むことを特徴とする。

請求項 10 記載の発明は、登録する 1 つの文書に対して、複数のプロパティ項目を設定し、登録を行っている最中の文書や、既に登録されている文書に対して、元ファイル内に埋め込まれたヘッダ情報を読み取る文書管理システムのコンピュータプログラムを記録した記録媒体であって、文書の登録指示を受け付ける処理と、前記文書のヘッダ情報を抽出し、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報の有無を判定する処理と、前記判定する処理により、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が有ると判定された際に、前記文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けを設定する設定画面を表示する処理と、前記設定画面において設定されたヘッダ情報と前記文書プロパティとの対応付けに基づいて、前記ヘッダ情報の値を前記文書プロパティの値として設定する処理と、を含むことを特徴とするコンピュータプログラムを記録した記録媒体である。

20

【発明の効果】

30

【0013】

本発明によれば、プロパティ値に入力する際の間違いが介入することなく、プロパティ値設定の手間も軽減することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

本発明の第 1 の実施の形態を図 1 に基づいて説明する。ユーザーは、文書管理システムの管理外の Exif ファイルを選択し、システムへの登録を指示する。

【0015】

システムの UI 提供部 101 は、ファイルをヘッダ解析部 102 に渡す。

【0016】

40

ヘッダ解析部 102 ではファイルのヘッダ情報を読み取り、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が存在する場合、UI 提供部 101 へヘッダ情報を渡して、UI 提供部 101 が、例えば、図 2 に示すような対応付け設定画面を表示する。

【0017】

ユーザーは、対応付け設定画面で下記の対応付け設定を行う。ヘッダ情報の「撮影日」項目→文書プロパティの「作成日」プロパティ。また、ヘッダ情報の「カメラメモ」項目→文書プロパティの「メモ」プロパティ。

【0018】

そして、ユーザーが登録実行を指示すると、システムの文書管理部 103 は、ヘッダ情報の「撮影日」の値を文書の「作成日」プロパティの値に設定し、ヘッダ情報の「カメラ

50

メモ」の値を文書の「メモ」プロパティの値に設定した上で、文書管理DB104へ文書を新規登録する。

【0019】

次に、本実施の形態における処理フローを図を参照して説明する。

【0020】

図3を参照すると、まず、文書の新規登録を指示する(S301)。

【0021】

次に、ファイルのヘッダ情報を抽出する(S302)。

【0022】

プロパティとして適当なヘッダ情報があるか否かを判定する(S303)。

10

【0023】

プロパティとして適当なヘッダ情報がないとき(S303／いいえ)は、デフォルトの文書プロパティ値を文書に対して設定する(S304)。

【0024】

一方、プロパティとして適当なヘッダ情報があるとき(S303／はい)は、ヘッダ情報と文書プロパティの対応付け設定画面を表示する(S305)。

【0025】

次に、ユーザーが対応付け設定を行い、登録実行を選択する(S306)。

【0026】

設定された対応付けの通りにプロパティ値を文書に対して設定する(S307)。

20

【0027】

最後に、文書を登録する(S308)。

【0028】

次に、本発明の第2の実施の形態を説明する。ユーザーは、文書管理システムの管理外のExifファイルを選択し、システムへの登録を指示する。

【0029】

システムのUI提供部101は、ファイルをヘッダ解析部102に渡す。ヘッダ解析部102ではファイルのヘッダ情報を読み取り、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が存在し、適用可能な対応付け設定が存在する場合、例えば、図4に示すような対応付け選択画面を表示する。

30

【0030】

ユーザーは、対応付け選択画面で下記の対応付け設定を選択する。ヘッダ情報の「撮影日」項目→文書プロパティの「作成日」プロパティ、また、ヘッダ情報の「カメラメモ」項目→文書プロパティの「メモ」プロパティ。

【0031】

そして、ユーザーが登録実行を指示すると、システムの文書管理部103は、ヘッダ情報の「撮影日」の値を文書の「作成日」プロパティの値に設定し、ヘッダ情報の「カメラメモ」の値を文書の「メモ」プロパティの値に設定した上で、文書管理DB104へ文書を新規登録する。

【0032】

40

次に、本実施の形態における処理フローを図を参照して説明する。

【0033】

図5を参照すると、まず、文書の新規登録を指示する(S501)。

【0034】

次に、ファイルのヘッダ情報を抽出する(S502)。

【0035】

プロパティとして適当なヘッダ情報があるか否かを判定する(S503)。

【0036】

プロパティとして適当なヘッダ情報がないとき(S503／いいえ)は、デフォルトの文書プロパティ値を文書に対して設定する(S504)。

50

【0037】

一方、プロパティとして適当なヘッダ情報があるとき（S503／はい）は、ヘッダ情報と文書プロパティの対応付け設定画面を表示する（S505）。

【0038】

設定された対応付けの通りにプロパティ値を文書に対して設定する（S506）。

【0039】

最後に、文書を登録する（S507）。

【0040】

上記の本実施の形態によれば、文書登録のたびに、ヘッダ情報と文書プロパティ項目の対応付け設定を行うのは、大量の文書を登録する場合に、ユーザーの手間がかかり、また、同じような形式のファイルを大量に登録する場合、対応付け設定も同じようになる可能性が高いので、そのたびに対応付け設定を行うのはユーザーの手間がかかるが、対応付け設定を保持しておくことができれば、ある形式のファイルを新規登録する際に、一度だけ対応付け設定を行い保存しておけば、その後同じ形式のファイルを登録する場合は、適切な対応付け設定を選択すればよく、登録時のユーザーの手間が省ける。

10

【0041】

次に、本発明の第3の実施の形態を説明する。ユーザーは、文書管理システムの管理下にある文書を選択し、対応付けの再適用を指示する。

【0042】

システムのUI提供部101は、ファイルをヘッダ解析部102に渡す。ヘッダ解析部102ではファイルのヘッダ情報を読み取り、文書プロパティとして設定が可能なヘッダ情報が存在し、適用可能な対応付け設定が存在する場合、例えば、図4に示すような対応付け選択画面を表示する。

20

【0043】

そして、ユーザーは、対応付け選択画面で下記の対応付け設定を選択する。ヘッダ情報の「撮影日」項目→文書プロパティの「作成日」プロパティ、また、ヘッダ情報の「カメラメモ」項目→文書プロパティの「作成者」プロパティ。

【0044】

そして、ユーザーが対応付けの再適用実行を指示すると、システムの文書管理部103は、ヘッダ情報の「撮影日」の値を文書の「作成日」プロパティの値に設定し、ヘッダ情報の「カメラメモ」の値を文書の「作成者」プロパティの値に設定した上で、文書管理DB104の文書を更新する。

30

【0045】

次に、本実施の形態における処理フローを図を参照して説明する。

【0046】

図6を参照すると、まず、文書プロパティ対応付けの再適用を指示する（S601）。

【0047】

次に、ファイルのヘッダ情報を抽出する（S602）。

【0048】

プロパティとして適当なヘッダ情報があるか否かを判定する（S603）。

40

【0049】

プロパティとして適当なヘッダ情報がないとき（S603／いいえ）は、対応付けの再適用ができない旨のメッセージを表示して終了する（S604）。

【0050】

一方、プロパティとして適当なヘッダ情報があるとき（S603／はい）は、ヘッダ情報と文書プロパティの対応付け設定画面を表示する（S605）。

【0051】

次に、設定された対応付けの通りにプロパティ値を文書に対して設定する（S606）。

【0052】

50

最後に、文書を登録する（S607）。

【0053】

上記の本実施の形態によれば、文書プロパティAに、ヘッダ情報Aを対応付けて文書を登録した後で、やはり文書プロパティAには、ヘッダ情報Bを対応付けた方が文書の管理がしやすいとユーザーが思った場合、既に登録済みの文書については、ユーザーが手動でプロパティAにヘッダ情報Bの値を設定する作業を行う必要があり、非常に手間がかかるし、間違いが介入する可能性も出てしまうが、既に登録されている文書に対して、対応付けの再適用を行うことができれば、あらかじめ文書プロパティAにヘッダ情報Bを対応付けた対応付け設定を保存しておき、ユーザーは文書を選択して「対応付けの再適用」指示し、対応付け設定を選択しなおせば文書プロパティAが自動的にヘッダ情報Bに置き換わり、ユーザーのプロパティ変更の手間も省け、間違いが介入する可能性もなくなる。

10

【0054】

なお、上述する各実施の形態は、本発明の好適な実施の形態であり、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更実施が可能である。例えば、ファイルフォーマット、書誌情報設定、文書管理システム、文書検索システム、デジカメ画像管理ツールなどに適用可能である。

【図面の簡単な説明】

【0055】

【図1】本発明の第1の実施の形態における文書管理システムの構成を示す図である。

【図2】本発明の第1の実施の形態における設定画面の一例を示す図である。

20

【図3】本発明の第1の実施の形態における処理動作を示すフローチャートである。

【図4】本発明の第2の実施の形態における設定画面の一例を示す図である。

【図5】本発明の第2の実施の形態における処理動作を示すフローチャートである。

【図6】本発明の第3の実施の形態における処理動作を示すフローチャートである。

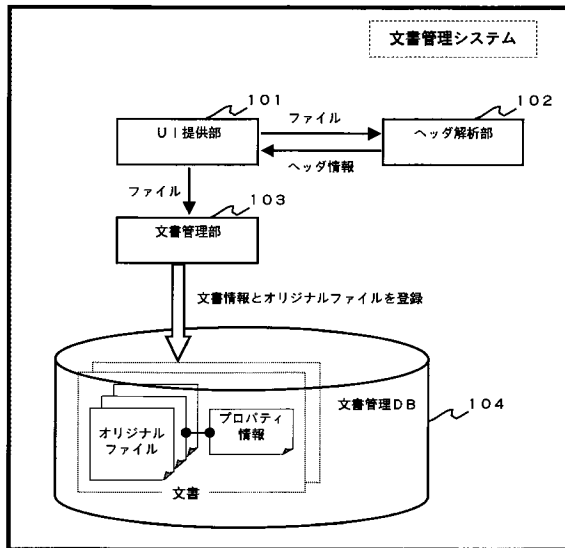
【符号の説明】

【0056】

- 101 UI提供部
- 102 ヘッダ解析部
- 103 文書管理部
- 104 文書管理DB

30

【図 1】



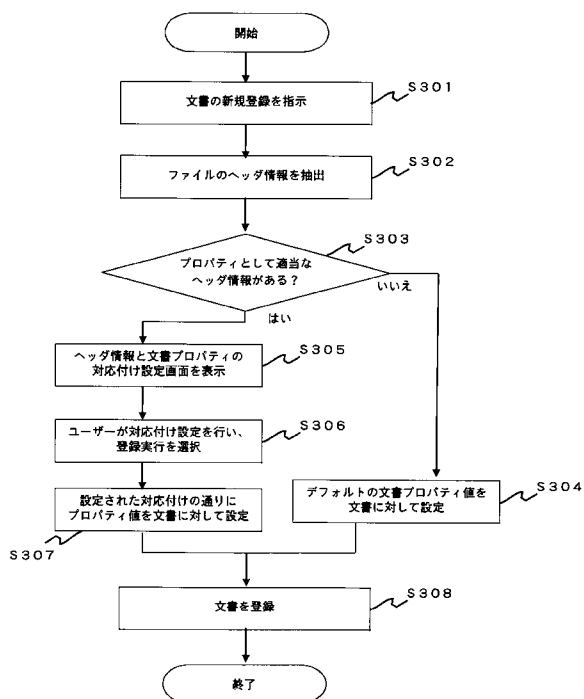
【図 2】

ヘッダ情報		プロパティ項目	
項目名	値	項目名	値
ファイル名	PICT0001.jpg	文書名	PICT0001.jpg
種類	EXIF	作成者	
サイズ	438,773 バイト	作成日	2004/11/29 10:11:12
撮影日時	2004/11/29 10:11:12	更新日	2004/11/30 10:11:12
更新日時	2004/11/30 10:11:12	文書状態	
画像サイズ	1,600 X 1,200	メモ	XX工事現場
カラー	True Color		
カメラメモ	XX工事現場		

追加 >> << 削除 クリア

OK キャンセル

【図 3】



【図 4】

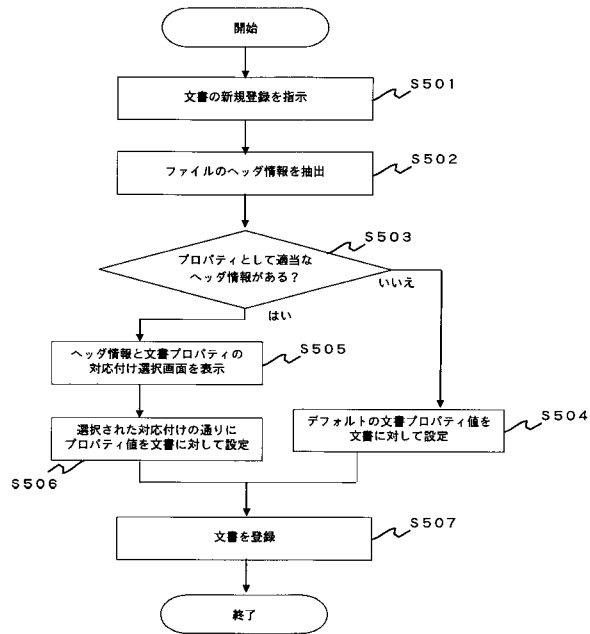
● 対応付けリストから選択して登録

XX工事現場のデジカメ画像
YY事務所のCADファイル
:
:

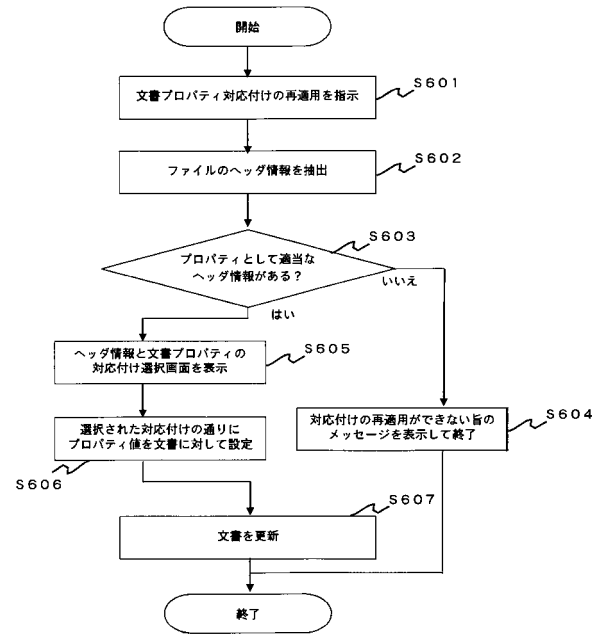
○ 対応付け設定して登録（対応付け選択画面を表示）

OK キャンセル

【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平09-091408 (JP, A)

特開平11-110275 (JP, A)

特開2002-230010 (JP, A)

鈴木 克志, CALS対応SGML文書管理技術, 三菱電機技報 第70巻 第10号, 日本,
三菱電機技報社, 1996年10月25日, 第70巻 第10号, 76~81頁

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G06T 1/00

G06F 12/00

G06F 17/30